

ブラウン園芸部～花だより～

ブラウンクラブ園芸部の方々が丹精込めて育ててくださっているハマロードのお花たち。その折々のようすをご紹介します。いただいたこのシリーズも、冬で締めくくりです。

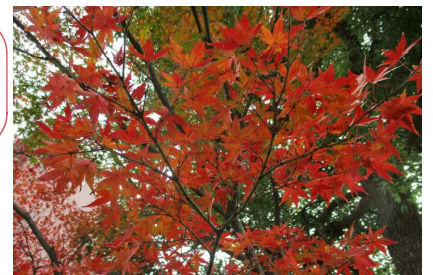
冬の巻

すっかり紅葉も散って、少し寂しくなった感のあるハマロードでしたが、可憐なパンジー、ノースポールなどが元気な姿で私たちを楽しませてくれました。さらに、春の花だとばかり思っていた桜草がたくさん咲いて、花壇をピンク色で彩ってくれました。

地中では春の芽吹き、開花に向けた営みが、ひっそりとかつ着実に進行していた冬の花壇でした。



初冬のハマロードとブラウンの紅葉～ケヤキや楓が本当にきれいでした。

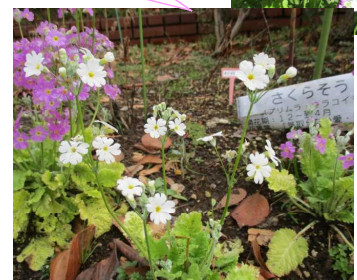


冬の定番、パンジーにノースポール。ハマロードを可憐に彩ってくれました。



12月初めからは桜草が次々と咲いて、花壇も華やかに。

中には、白い桜草も咲いていました。



春の花だと思っていた桜草が冬に咲いた、、、
意外なことだったので、改めて「桜草」について、
調べてみました。

サクラソウ豆知識

サクラソウにまつわる
西洋のお話



日本桜草(ニホンサクラソウ)

原産地:日本、朝鮮半島、中国東北部、シベリア
開花期:4~5、6月 花色:ピンク、紫、赤、白
学名:Primula siebolii
(プリムラ・シーボルデイ)

名の由来は、形・色が桜に似ていることから。
日本では江戸時代あたりから自生種を元に栽培と品種
改良が進む。武士の間で愛好家のグループが形成され、
新しい品種の作出を競い合っていたそう。

結果、花色のバリエーションも増え、現在300を超える
品種があるとか。

学名の「シーボルデイ」は、あの「シーボルト」のこと。
アジサイと同様、シーボルトがヨーロッパに紹介したの
でしょうか、、、。

日本では外国産の品種をプリムラ(セイヨウサクラソ
ウ)と呼び、国内の原種とそれを元にした園芸品種をニ
ホンサクラソウとして、区別。

自生種は生息地が激減し、環境省の準絶滅危惧種に
指定されているとか。

プリムラ・マラコイデス、、、園芸部花壇のプリムラの名前。添えてある
名札に書いてあります。開花期も12~4月と。ですから、冬に 開
花していても不思議ではなかったのです。「名札」見ているようでも、見落
としてました。すみません。花言葉は「気取らない愛」「素朴」。皆さん、
確認されましたか?別名は「乙女桜」「化粧桜」。うなづけますね。

【その1】

ギリシャ神話の花の女神フロ
ーラの息子パラリソスが恋人
のニンフを失ってしまい、悲し
みでやつれて最後には死んで
しまいます。

フローラは息子を不憫に思
い、彼の姿を早春一番に咲く
「サクラソウ」に変えたとか。

【その2】

妖精が守る城の鍵(ドイツ)

病気の母親と暮らす貧しい
女の子が母親を慰めるために
サクラソウを持ち帰ろうとし
ます。

折るのはかわいそうだと、
丁寧に根を掘り出すと、現れ
たのは妖精。

妖精は「サクラソウの咲く
道を行くとお城がある。城門
の鍵穴にサクラソウを差し込
むと扉が開く。」と教えます。

そして、女の子はたたく
の宝石や金貨を貰い、母親の
為に薬を買うことができた
とか。

サクラソウはドイツ語で「鍵の
花」と呼ばれるそうです。

ジュリアンやストクのお花も咲いていました。



撮影の時期が
遅かったようです。

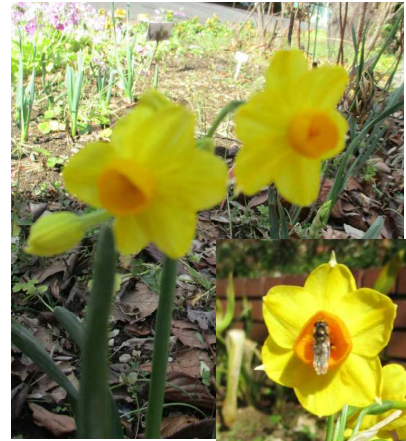


クリスマス・ローズがつぼみをつけたのは2月にな
ってからでした。恥ずかしがり屋さんで、開
花してからもうつむいたままでした。

水仙たちも花を咲かせました。



早春の花、日本水仙。凜とした姿に香り、いいですね。2月半ばあたりから、黄水仙、ラッパズイセンも咲き始めました。

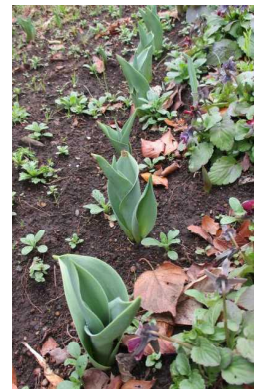


水面にうつる自分の姿に恋をした美少年、ナルキッソス。その姿が水仙になったというギリシャ神話の話は、あまりにも有名。水仙の自生地の一つとして有名な福井県の越前海岸には、水仙が海を向いて咲く事に、次のような伝説もあるそうです。平安末期、京攻めの木曾義仲に従った居倉浦の男。帰郷すると、家には留守中、弟が海で助けた娘が。その娘をめぐって仲の良い弟と果たし合いに。悲しんだ娘は、海に身を投げてしまったそう。

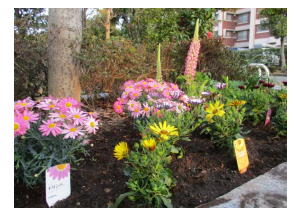
次の年、娘の化身のような美しい花が海岸に流れ着き、それが根付いて今の水仙になったとか。娘の悲しみから海を見つめながら咲く花と、言われているとのこと。

2月末からは、日に日にチューリップの芽が伸びています。その成長の速さには驚かされます。冬の間、球根は春の芽吹きにそなえ、途中でずっと養分を蓄えていたのですね。

菜の花も咲きました。黄色は人を元気にしてくれる色ですね。



3月上旬、ルピナスなどが植えられて、一気に春めいた花壇となりました。



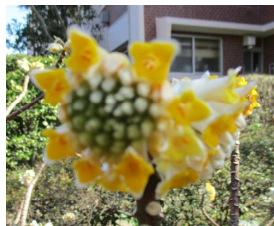
この冬も園芸部花壇のお花が、ハマロードを彩ってくれました。この一年、新しいお花のことも知ることができ、花壇を見るのが楽しみでもありました。園芸部の皆様、地道なお花のお手入れ、本当にお疲れ様です。いつも、ありがとうございます。

冬の樹木のお花もなかなかでした。



たくさんの赤いサザンカが散ったあとに、こんなきれいなサザンカだか、椿だかのお花を見かけました。

ミツマタのお花です。…20-1の西側。おもしろい形・色のお花だと思っていたら、つぼみでした。開花したお花も初めて目にするもの。ミツマタのお花だと教えていただきました。あの和紙の原料の「ミツマタ」？それが、ブラウンの植栽の中にあっただとは、まったく気づきませんでした。



ジンチョウゲ科の落葉性の低木。原産地は、中国中南部・ヒマラヤ。枝が三つに分かれるミツマタは、昔は、春を告げるがごとく一足先に黄色い花を咲かせることから、「サキクサ(先草)」と呼ばれたり、縁起の良い吉兆の草とされていたことから、「幸草(サキクサ)」と呼ばれたとも。万葉歌人、柿本人麻呂の和歌にも登場する花のようです。

和紙の原料として重要な植物で、紙幣の原料でもあります。

2月上旬、梅も開花しました。下は、もう一つの梅一輪。



3月上旬には、ハクモクレンも満開に。桜の開花ももうじきです。

